

西公民館

第17回
松前っ子道中
まさき城下町の
大移動再現

10月18日(土)、第17回松前っ子道中を実施した。

小学生21名、保護者6名、小学校校長、職員、育成会会長、老人会、婦人会、史談会の会員などで約60名の参加者を得て、2台のマイクロバスに分乗し、8時に松前小学校前を出発した。

筒井門の礎石、日招八幡神社のお豊石、岡井藤志郎顕頌碑、札の辻の栗田樗堂の生家などを見学し、味酒校区の松前町一丁目から五丁目を車窓に見ながら、味酒公民館へ到着。公民館長さんはじめ職員、味酒小学校の児童、PTAの方々など約80名の出迎えを受け、交流会ではエールの交換をし合った。

史談会の玉井桂会長から「松前町の皆さん、懐かしいねえ。」と4百年ぶりの再会を呼び掛けた。城主加藤嘉明にふんした史談会会員の足立重明氏から次の宣言文が読み上げられた。

宣言文

私は本日本家臣団に松前城下民を引き連れて、この地に入城した。改めて、ここに松前の「松」と勝山の「山」とつて「松山」と名づけ、「松山」の誕生を宣言する。
慶長8年10月15日

松山城主加藤嘉明

なごやかな雰囲気になり盛んな拍手が送られた。

交流会の後、両方の参加者は松前から移って来た寺院やゆかりの地を散策し、両町が共有する歴史を学ぶことができた。

我々一行は、八股大明神(お万の方より)でおにぎり弁当をもらい、黒門口から松

▼城下町の大移動



▲松山城にて

山城に登った。松前城からの石や筒井門、戸無し門、乾やぐらなどを見学した。

おたたさんにふんした一行は松前音頭を踊り、一般の観光客の目を引いた。

史談会の皆さん方や小学校その他関係の皆さん方のご協力でき、4百年前のロマンに思いをはせることができたことは、松前っ子にとっても味酒側にとっても有意義なものになったことと思う。

補導センターだより

迷ったときは、前に出る

松前小学校 大森茂樹

この言葉は、近年低迷する阪神タイガースを、今年見事優勝に導いた星野監督が選手たちに言い続けた言葉です。

人生において、「やって後悔したこと」と「やらずに後悔したこと」の数を比べてみると、「やらずに後悔したこと」の方が圧倒的に多いものです。

思ったことをやって、もしそれで恥をかいてもいい。やって失敗しても、そこには何かが残ります。

これは、学校や地域社会の中でも通じることが多いと思います。私も教室の中で子どもたちに、「自分一人でもいい、正しいと思ったことは、行動に移さないと相手に思いは通じない。」ということをよく言い聞かせます。頭の中では「こうしよう」ということが分かっています。

一人では恥ずかしい、みんなはどう思うだろうかなどと考えてしまい、結局大事なことに對しても無関心、傍観者の態度になってしまっていることがあります。

地域社会の中でもそうです。例えばあいさつにしても、「この人は知らない人だからあいさつをしなくてもいい」と考えるのではなく、出会った人はだれにでも「進んであいさつをする」ことが大切なのです。困っている人を見かけたら声をかける、手を貸す、お年寄りの方に席を譲る、落ちていたゴミを拾うなど、行動に移す場面はたくさんあります。幸い松前町には、いろいろな場面で子どもたちの手本となる行動をしてくださる大人の方が多く、大変感謝しています。

人間は、一人では生きていくことはできません。夫婦、親子、友達、教師と児童生徒、職場、地域、様々な人間関係があります。お互いが理解し、感情を出し合い、助けたり迷惑をかけたり、慰めたり、傷つけたり、そういうお互いの「積極的なかわり」を喜び合える関係でありたいと思います。